

歴史を訪ねて…

笠岡市の文化財



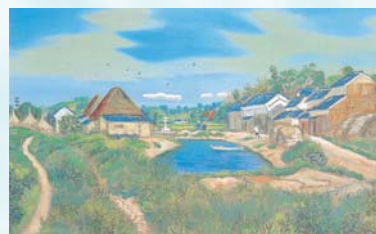
しょうとう ごりん せきとう
正頭の五輪石塔
市指定重要文化財
(石造美術)

五輪塔は、下から基礎（地輪）、塔身（水輪）、笠（火輪）、受花（風輪）、宝珠（空輪）の五つの部分を積み重ねて構成されています。地・水・火・風・空の五つによって宇宙が形成されている、という仏教思想にもとづいてつくり出された塔だからです。大島中の正頭地区にある二基の五輪塔は、笠岡市内にある五輪塔の中でも最大級の、すぐれた五輪塔です。浅野氏先祖の墓と伝えられていますが、詳しいことは不明です。高さは一・五から一・六メートル。現物を前にすると、どっしりとした大きさが際だって感じられます。

片方の五輪塔の一部には梵字が確認できるため、もともとは各部位に梵字が刻まれていたものと考えられます。全体の形状から、室町時代のはじめ頃に造られたと考えられています。また、使われている石材は、香川県西部でとれる凝灰岩だと思われま。はるばる海を越えて運ばれてきたこの石材は、笠岡周辺においても中世前半の石造物に使われている例がいくらかあり、この地方の社会の動きを考える上でも貴重な資料といえます。

竹喬美術館みどころ5

国画創作協会の素描



森谷南人子
＜海辺（曇）＞

昭和3（1928）年

展覧会と行事のご案内

国画創作協会の素描

会期中～10月5日(日)
休館日 毎週月曜日
(ただし9月15日は開館し、翌日休館)
開館時間 9:30～17:00
(入館は16:30まで)
市内小中学生および65歳以上の人は入館無料です。

ギャラリートーク

作品の解説をします。入館料のみ必要です。
9月6日(土)・20日(土)
13:30～14:30

〒714-0087
笠岡市六番町1-17
☎63-3967
ホームページ
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>

森谷南人子は、明治22年7月14日、小田郡大井村に生まれました。同じ年の11月20日、小田郡笠岡村では小野竹喬が生れていますが、南人子は貿易商を営んでいた両親と、5歳で神戸に転居します。

二人は同じように京都で日本画家への道を歩みだしますが、竹喬は竹内栖鳳の画塾に学び、南人子は京都市立美術工芸学校絵画科に入学するなど、環境に違いがありました。また、南人子は創作版画の制作に熱心に取り組んでおり、友人関係も異なっています。

この作品は油絵のようにも見えますが実際は日本画です。青を基調にして、尾道周辺の入江と曇り日の重たい空とが描かれています。今回の展覧会では、南人子をはじめ、国画創作協会が活躍した画家達による、素描と本画（完成作品）がご覧いただけます。

係から

インターネット技術の進歩は広報紙の作り方に大きく影響しています。紙面で使う言葉の意味や用例の確認で調べたいことがあれば、かつてはまず、辞書・辞典、詳しいことは図書館・書店で専門書を探すということにかなり時間を要しました。今では、キーワードから検索エンジンにキーワードを打ち込めば、数秒でネット上の情報を集めることができます。文字どおり「便利な道具」として欠かせません。一方でインターネットの時代に広報「紙」をどのような内容で作るべきかを考えさせられます。

今月の表紙

発行日／平成20年9月1日
発行／笠岡市役所
編集／企画政策課
〒714-8601 笠岡市中央町1-1
☎69-2110

印刷／(株)国輝堂 ☎67-5111



※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆インキで印刷しています。